

ヨツボシケシキスイなど鞘翅類も多くゆっく
り昆虫採集に時間を費したい所である。

この草地を過ぎると再びアカマツ、クリ、
コナラの林になる。夏期はシジュウカラやヤ
マガラ、コゲラなどが見られ、シジュウカラ
やエナガは混群をつくって飛び回っている。

茂原と移の分れ道あたりはアカマツも巨樹
が多くなり樹令100年以上と思われるものも
見られ、ケヤキ、トネリコ、カシワなども混
じり、これらの木にはヤマブドウやアケビが
からみついでいて9月末から10月にかけては
たわわに実がさがっている。そのせいかヒヨ
ドリが非常に多い。

この山の幸をとるためか、かなり太い枝が
あちこち折られていて、ブドーのつたなども
随分いためつけられているのを見る。この山
には熊の生息は考えられないので、明らかに
人のなせる業である。大切な自然を永く子孫
に伝えるためにもこのようなことは慎しみた
いものである。

クリの実も路傍には沢山落ちていて、カケ
スやカラス類の姿も多くなる。やがて牧場に
着く。段々畑のような牧場である。リンドウ
やセンブリが目につく、遥か下に先程登った
道が見える。

* 日山の地質 *

日山は別名天王山とも呼ばれ、海拔1058m
で阿武隈山地のうちで大滝根山（海拔1193m）
につぐ第2の高峰を誇っている。地形略図に
も示してあるように、太平洋と中通り地域を
わける分水界は、阿武隈山地のほぼ中央を南
北に走っていることがわかる。この分水界を
つくっている山には、日山をはじめとして、
北から三郷森（703m）・無垢路岐山（672m）・
花塚山（918m）・^{いほ}疣石山（792m）・戦山（863
m）・高太石山（864m）・白馬石山（821m）・
蟹山（868m）・竜子山（921m）・鎌倉山（967m）
など、700mから900m級の山やまが軒をなら
べて配列している。分水界を横切っている谷
部のところには、水境と^{みずまわ}か峠の名前がつけら
れていたり、市町村の境界や郡界になってい
ることが多い。なお、日山は国土地理院の三
等三角点になっていて、頂上部のところには花
崗岩でつくった標識が設置されている。

日山の全体の形は、さきにあげた10カ所の
山と同じように、尾根が大体北西から南東の
方向に向きをとっている。この形は、かつて